

ものづくりの様子とカプカプ作品展

ひかりが丘

20周年の祭りやミロコマチコさんのWSから沢山の作品が生まれ、パフォーマンスキャラのGマンも誕生しました！そして、馬上さんの作品が2度目のバリアフリー能のチラシに！！来年度も充実させていきたいと思ひます。



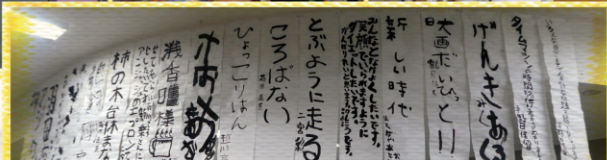
竹山

新たな挑戦として、「クッキー製作」に取り組みます。試作段階なので詳細は発表できませんが、2019年度中には商品として店頭に並べたいものです。

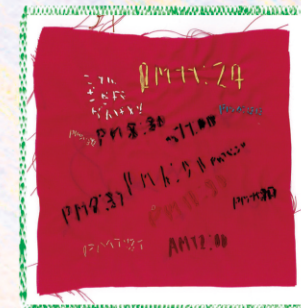


川和

季節の事柄をモチーフに絵を描いたり作品作りをしていて去年から映像作品にも挑戦中！来年度はお店の展示にも力を入れ、様々なお客さんに楽しんでもらえるようにしていきます。



高橋智美 (WATABE BRUNCH TOKEI)



小林大起 (AM12:00)



石川郁也 (自画像)



坂田直子 (いのしし年)



富原貴俊 (Gマン)



酒巻康郎 (アンコウ)



二宮彩 (豆まき)



戎井優理 (原橋さん)



鶴見佑太 (おみだくじ鬼)

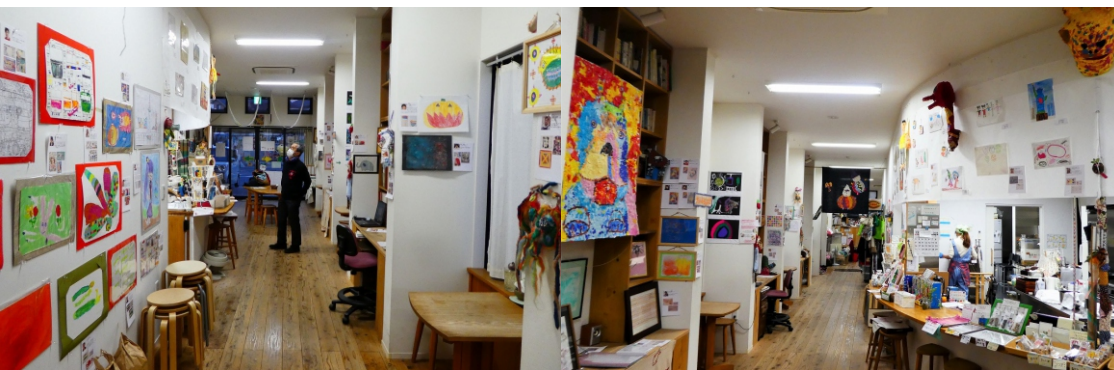
2018年11月14日から11月30日まで、カプカプ川和で「ココロはずむアート展」を開催しました。

画家の中畝常雄さんが、障害者の作品発表の場としてコミュニティーカフェ「スペースナナ」（あざみ野）を会場として始めたココロはずむアート展は、2018年の開催で8回目を迎えました。カプカプ川和はメンバーのご家族から紹介していただいて、3回目の開催から参加しています。私たちが初めて参加した3回目は5つの施設から31名の作品が展示されました。8回目となった昨年は、参加施設も10カ所となり、総勢90名の作家の作品が展示されました。

このアート展、複数の施設の大勢の作家の作品を一か所で見られるのも特徴ですが、他に二つ紹介したい特徴があります。一つ目は巡回展であることです。6回目の開催から、スペースナナに加えて、作家が普段活動している施設での巡回展示が始まりました。昨年はカプカプ川和も含む5つの会場で、10月から翌年2月までの長丁場の開催となりました。

もう一つは作品に添えられる“作家カード”です。このカードには、作品だけではなく、作者の普段の姿や作品へのこだわりなどが書かれていて、作家自身の魅力を伝えるものとなっています。普段一緒に活動している施設の職員たちの「この作品を生み出したのはこんなステキな人なんだ」という作者に向けられたまなざしでもある“作家カード”は、現在冊子にまとめる作業中です。作品集ならぬ「作家集」。出来上がったらカプカプ川和のTwitterでもお知らせします。ぜひ手に取ってご覧ください。

ココロはずむアート展は、2019年も秋ごろ開催予定です。



2019年度の合言葉は「新しくッ！」

まずはさみしい話から・・・

2018年度の竹山商店街は「さよなら」の多い一年となりました。今まで、メンバーの工賃やらなにやらでお世話になっていた横浜銀行竹山支店さんが、12月中旬をもって去り、ぽっかりと大きな空間ができました。おいしいマグロを売っていた魚屋さんも姿を消しました。そして、各店舗の皆さんの入れ替わりもちらほら、、、ご多分に漏れず、ここカプカプ竹山の職員も交代いたします。とはいえ、サヨナラの向こう側には、新しい出会いもあるもので、2019年度のカプカプ竹山は、「新しくッ！」を念頭に向かっていきたいと思います。元号も変わりますしね。



まずは、軌道に乗ってきたパウンドケーキ作りに加えて、「クッキー」を作り、新たなファン層を広げます。パッケージもメンバーの作品を使用した可愛いものを作ります。商店街のお店として、お祭りの「参加」のみならず、企画にも加わって一緒に盛り上げる一員として頑張っていきます。その第一弾は昨年から始まった「お花祭り」で、出演者／出店店舗として加わります。さらに、喫茶にお客さんが減ってきた打開策と、メンバーの慢性的な運動不足を一挙に解決するべく、「パウンドケーキをお届けしますサービス」を展開したいと思います。竹山団地に、着々と増えてきたご高齢の皆様の見守り、なんてことも視野に入れて・・・、ついでに不用品の回収もしてみたり、、、「地域貢献する私達の姿に期待してください！」と、とりあえず大風呂敷小風呂敷をひろげる年度初めといたします。



そして、今年度の終わりには、冒頭のさみしい話を「ほほえみ返し」する一年となっているはずです。